

令和7年度 帰国・外国人児童生徒に対するきめ細かな支援事業 実施体制（八幡市教育委員会）

【課題】

日本語指導が必要な児童生徒の転入学等が増加し、また地域に散在することから、拠点校（八幡小学校・男山第三中学校）での受入れのみではなく、本来校も含めた指導体制の構築が必要。

【実施事業の概要】

教育委員会

日本語支援員や母語通訳者の派遣、翻訳機器の貸出等

- 拠点校
- ・コーディネート会議の開催
 - ・指導体制の検討
 - ・個別の社会適応の支援

- ・日本語能力測定方法（DLA）によるアセスメント
- ・「特別の教育課程」の実施
- ・JSLカリキュラムによる学力保障
- ・中学生への進路保障

- ・集団生活
 - ・国際理解（相互理解）
- 本来校

評価

改善
普及

【成果の指標】

拠点校日本語教室に通級する児童生徒に対して日本語能力測定方法(DLA)によるアセスメントの実施

目標値：100%

日本語支援員、母語通訳者の対象校への派遣

目標値：100%

拠点校日本語教室へ通級する児童生徒の本来校復帰

目標値：20%